

# 大崎上島で育む未来

自分たちの生きている風土をしっかりと知る。そこにはかけがえのない、つまり他と交換できない自然があって、かけがえのない人間の営みがあって、かけがえのない風土が形成されている。そういうものもっている深さとか大切さがわかってくと、世界の人たちがみな同じようなかけがえのない世界で生きていくことに気づく。世界の具体的なことは知らなくても、自分たちの足元の世界をしっかりとみたくときに、世界もまたその自分たちの足元と同じような世界の集積体であることがわかってくるのです。※



(※内山節「ローカリズム原論」より)

## 1 学校づくり グローバルの起点としてのローカル、交流の起点としての「個」を尊重する学び舎

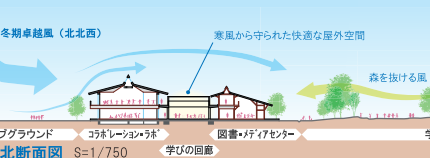
- 1. 大車の風景に織り込むローカルな建築とランドスケープ**  
広島県のグローバリゼーション育成校として、広島・大崎上島・大車のローカル文化を伝える建築・環境を目指します。
  - ・温暖な気候を生かし、集落に織り込むような分棟の配置とし、屋内外が連続する開放的な学び舎をつくりだします。
- 2. 地域の木材でつくる心を磨く学び舎**  
校舎を磨くことは、心を磨くことにも通じると考えます。磨ける校舎、そのために地域の木材を積極的に活用します。
  - ・県産木材、石灰（漆喰）など地域の素材と技術を用いた校舎とすることで、維持管理も含め、地域を学ぶ教材となります。
- 3. 地域に愛され、地域に育てられる学び舎**  
大車、大崎上島、広島を学ぶことが世界に通じたい出発点となります。地域に開いた空間づくりを行い、地域の人々に学び、地域の人々と共に育てる学び舎を目指します。
- 4. 自然な交流・協働を育む多様な風景**  
様々な背景を持つ子供の個性や文化を受け止め、ひとりひとりの学びに応える多様な空間・風景を散りばめ、仲間との自然な交流や協働を育める学び舎とします。
- 5. 時代の変化に応え、生徒と共に成長を感じられる学び舎**  
長寿命の開放的な架構を用い、時代と共に変化する新たな学習像に対応する一方、エイジングに応える学び舎とします。
  - ・生徒と共に豊かな緑を育て、季節の変化、木を通じた歳月と成長の感じられる緑豊かなキャンパスを目指します。

## 2 配置計画 「学びの森」を囲み、「学びの回廊」で結ぶ

**集落に連なる寮、大車外浜に連なるグラウンド、東西を結ぶ校舎の主軸：「学びの回廊」**  
敷地東側の遊水池と家並みに面し、正門と交流の空間を設け、海に伸びる「学びの回廊」で東西敷地と校舎を結びます。南側集落に隣接するように寮を配置し、学校の独立性・安全性と地域との一体性の両立を図ります。

**「学びの森」を抱き、緑に包まれたキャンパス**  
敷地外周を緑で囲み、東側敷地中央に「学びの森」を設け、校舎と寮を緩やかに離隔します。「学びの森」は、自然とのふれあい、リフレッシュの場であると共に、様々な学習や協働の場となります。「学びの森」に面した分棟型の校舎を配し、周囲に大小様々な屋外空間を設け、校舎北側には拡張の余地を残したサブグラウンドを設けます。

**強い風や浸水から守られる校舎と寮**  
風の強い西側敷地はグラウンドに利用し、浸水高より高い東側敷地に校舎と寮を設けます。「学びの回廊」の北側に体育館、コラボレーションラボ（2階建）を配置し、回廊や「学びの森」を冬の卓越風から守ります。



南北断面図 S=1/750



東西の水面を結ぶ「学びの回廊」

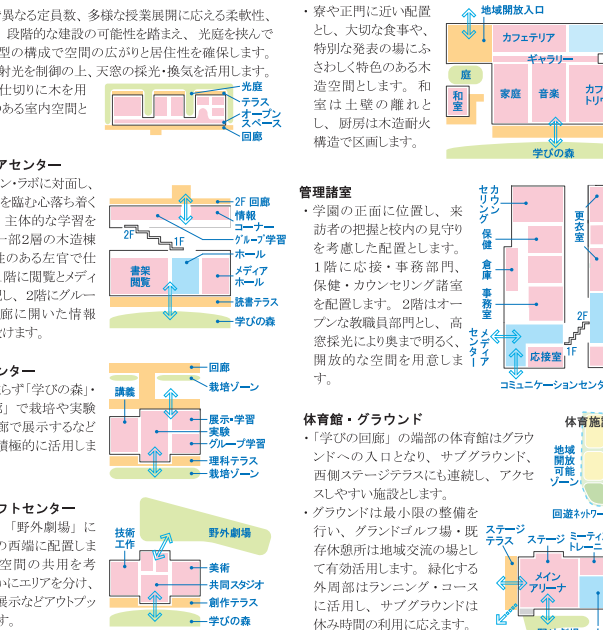
## 3 施設計画 温暖な気候と地域の素材・技術を生かした分棟型の校舎と寮をつくる多様な学習・生活空間

**回廊と路地つながり、様々な規模・形態の学習に応える低層分棟の学習空間**  
二層のコラボレーション・ラボを中心に平屋を基本とした4つのセンターを「学びの回廊」で結び、円滑な移動を可能とします。分棟化した建物が生む多様な屋外空間は、領域を超えた学習や発表・展示の場、憩いの場となります。エコキタスなどICTと合わせ、校舎全体で様々な規模の学習・高機能の学習に応えます。

**地域の素材・職人の手が生む温もりある環境**  
架構や仕上げに木材や大崎上島の漆喰など、地域の職人技術の伝わる素材・工法を用い、温もりある環境をつくりだします。

**瀬戸内の気候を生かした半屋外・隔だまり空間の活用**  
開放的な取り入れと温暖な気候を生かした半屋外のスペースを積極的に活用します。緑豊かな屋外に気軽に親しみ、自然な交流の生まれる場所を設けます。

**絶え間のない変化に応える開放的な架構と空間構成**  
様々な教育形態に応えるため、コラボレーション・ラボと管理諸室は鉄骨ラーメン構造の開放的な架構とし、間仕切り自由な空間を確保します。また、拡張余地ともなる半屋外のテラスを設けます。4つのセンターは増改築の容易な木造軸組構造を用い、適切な壁を確保しつつ弾力的な運用に備えます。



## 4 施設整備方針 地域の環境・材・人を生かし、地域との連携・協同で取り組む

**「学びの森」、「ふれあい広場」、屋外空間**  
広い敷地を生かした「森」や木立を、時間をかけて育てます。郷土産を中心に新たな樹種を混植することで、病虫害抑制と樹木の早期育成を図り、植栽・管理コストを低減します。雨水利用の池・草削溝・ビオトープを設け、学習に生かし、農家の指導によるブルーベリー、柑橘類の栽培などの地域学習に活用します。入学や卒業記念の苗木植栽と管理を生徒と共に、緑豊かなキャンパスに育てます。

**個から段階的に関係を育む分棟型の寮**  
日常生活の中で、適度な距離感を保てるような個室空間を確保し、そこから兄弟姉妹のような4人部屋、家族のような10人のリビング、近所のような40人の棟、集落のような180人の男女グループのように、個が自然に他者との関係を築き、広げること支援する構成とします。

**寮の管理棟は、敷地外周の2次セキュリティインの機能を兼ね、男女共用のラウンジを中心に男女浴場・折衝室・男女寮への入り口を設けます。**  
・マスターハウスの職員宿舎は校舎と寮の間に、独立した木造平屋を設け、学園の見守りと、学外からの直接アクセスに対応します。

**体育館・グラウンド**  
「学びの回廊」の端部の体育館はグラウンドへの入り口となり、サブグラウンド、西側ステージテラスにも連続し、アクセシブルな施設とします。  
・グラウンドは最小限の整備を行い、グラウンドゴルフ場・既存休憩所は地域交流の場として有効活用します。緑化する外周部はランニングコースに活用し、サブグラウンドは休み時間の利用に応えます。

**想像力を刺激する多様な木材活用**  
県産材の生産・加工能力を踏まえ技術的・経済的に無理のない木材利用を前提に、6m以下の県産の中間断面集成材と、6m以下の120mm角、150mm角を中心に上限120mm×360mmまでの杉製材を適材適所に用いる構造計画とします。鉄骨造の建物の鉄骨キール（電骨）トラスに中小集成材を組み合わせ、木造棟や寮では製材の利用を図ります。棟ごとに多様な架構を用い、実物教材として生徒の想像力を刺激します。



## 5 施設整備方針 地域の環境・材・人を生かし、地域との連携・協同で取り組む

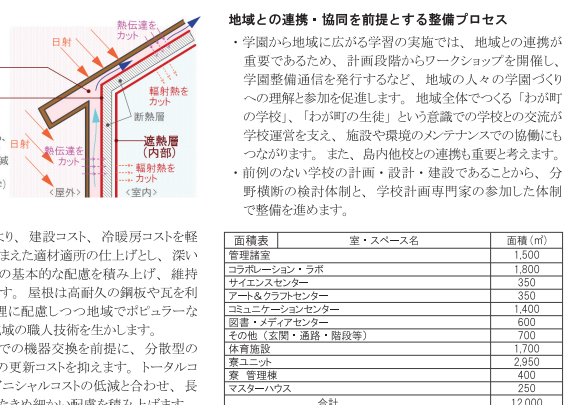
**地盤を考慮した「鉄骨造+木造」の軽質な構造**  
干拓地の地盤を想定し、鉄骨造と木造を組み合わせた軽質な低層の分棟型建築として、基礎工事の軽減と木材資源の有効利用を図り、工期の短縮と段階的な建設にも応えます。島の造船業に見られる溶接技術、大規模木造にも対応する地域の木造技術の活用など、幅広い地域の技術と人材を活用した学び舎づくりを目指します。

**想像力を刺激する多様な木材活用**  
県産材の生産・加工能力を踏まえ技術的・経済的に無理のない木材利用を前提に、6m以下の県産の中間断面集成材と、6m以下の120mm角、150mm角を中心に上限120mm×360mmまでの杉製材を適材適所に用いる構造計画とします。鉄骨造の建物の鉄骨キール（電骨）トラスに中小集成材を組み合わせ、木造棟や寮では製材の利用を図ります。棟ごとに多様な架構を用い、実物教材として生徒の想像力を刺激します。

**想像力を刺激する多様な木材活用**  
県産材の生産・加工能力を踏まえ技術的・経済的に無理のない木材利用を前提に、6m以下の県産の中間断面集成材と、6m以下の120mm角、150mm角を中心に上限120mm×360mmまでの杉製材を適材適所に用いる構造計画とします。鉄骨造の建物の鉄骨キール（電骨）トラスに中小集成材を組み合わせ、木造棟や寮では製材の利用を図ります。棟ごとに多様な架構を用い、実物教材として生徒の想像力を刺激します。

**想像力を刺激する多様な木材活用**  
県産材の生産・加工能力を踏まえ技術的・経済的に無理のない木材利用を前提に、6m以下の県産の中間断面集成材と、6m以下の120mm角、150mm角を中心に上限120mm×360mmまでの杉製材を適材適所に用いる構造計画とします。鉄骨造の建物の鉄骨キール（電骨）トラスに中小集成材を組み合わせ、木造棟や寮では製材の利用を図ります。棟ごとに多様な架構を用い、実物教材として生徒の想像力を刺激します。

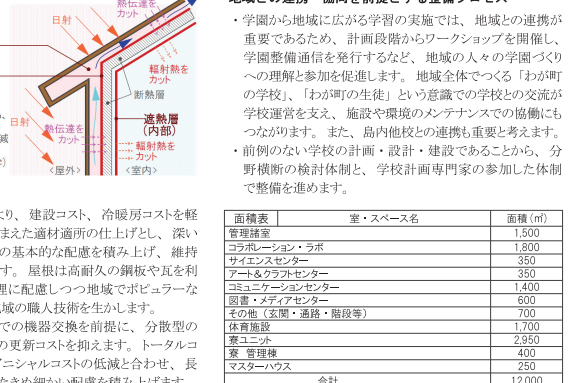
面積表	室・スペース名	面積 (㎡)
管理諸室	管理諸室	1,500
コラボレーション・ラボ	コラボレーション・ラボ	1,800
アート&クラフトセンター	アート&クラフトセンター	350
図書・メディアセンター	図書・メディアセンター	380
コミュニケーションセンター	コミュニケーションセンター	1,400
サイエンスセンター	サイエンスセンター	600
体育館	体育館	1,700
寮	寮	2,950
寮管理棟	寮管理棟	400
マスターハウス	マスターハウス	250
合計		12,000



トータルコストの低減

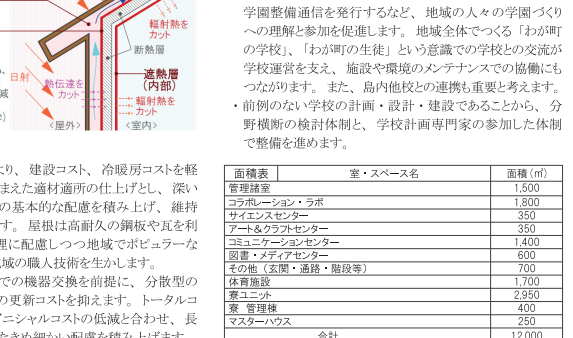
・共用通路の半屋外化により、建設コスト、冷暖房コストを軽減します。環境条件を踏まえた適材適所の仕上げとし、深い庇で壁の劣化を防ぐなどの基本的な配慮を積み上げ、維持管理コストの低減を図ります。屋根は高耐久の銅板や瓦を利用し、外壁材は維持管理に配慮しつつ地域でポピュラーな左官や板材を利用し、地域の職人技術を生かします。設備部での短いサイクルでの機器交換を前提に、分散型の設備システムとし、機器の更新コストを抑えます。トータルコストの低減を図ります。イニシャルコストの低減と合わせ、長期的な維持管理を考慮したきめ細かい配慮を積み上げます。

## 6 「学びの森」を見ながらの登校



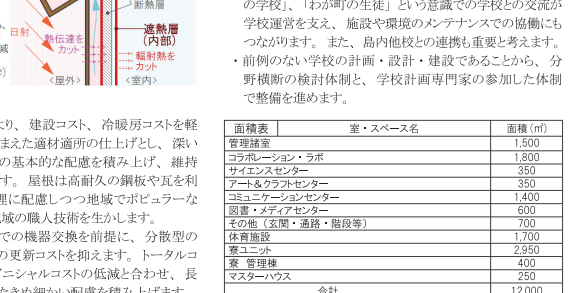
大車外浜を臨む夕陽テラス

## 7 寮ユニットと庭広場

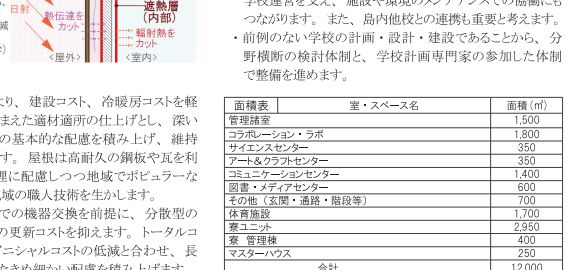


校舎1・2階平面イメージ S=1/600

## 8 大車外浜を臨む夕陽テラス



## 9 段階的整備イメージ



（竣工年度）

- H30 ■ H33
- H31 ■ H34
- H32 ■ H35

（動線）

- 生徒の生活動線
- 職員・来校者動線
- 工事動線